新学習
指導要領スタート！

体育 小学校の先生へのメッセージ

「楽しさ」を大切に 多様な「できる」を認め，体育を魅力的に！

高田　体育は子どもたちに人気のある教科の1つだと思います。“今日は体育の時間があるから，楽しみだな”という子どもたちがこれからも一人でも多くなってほしいと思っています。その一方で，今日は体育があるから憂鬱だなという思いをもつことのないようにしていただきたいと思います。“何かができるようになる”という技能の向上や“技の習得”という部分だけで捉えたら，苦痛に思ってしまう子もいると思います。でも体育はそういうことだけではないことを伝えてほしいと思います。



授業の中で，みんなで体を動かす楽しさ，協力する楽しさ，何かを成し遂げる楽しさというところをもっともっと大事にして，授業を通して“できる”ことを目指すけれど，その中で，子どもたちが仲間をより深く知ったり，仲間の役に立ったなと思ったり，汗をかいて気持ちいいなと思ったり，そういったところを感じて，今日の体育は楽しかったなと思ってもらえたら，教科の目標の一つは達成できたのではないかと思います。そこを大事にした授業づくりを進めてもらいたいと思います。

そしてこれからは，ぜひ，多様な「できる」を認めてほしい。「できる」というのは技能だけではありません。

- ▶課題を見つけられる
- ▶課題解決の方法を選ぶことができる
- ▶ずるをしないで友達と仲よくできる

などといった，これらの「できる」をたくさん認めていくということが，教科としての体育の魅力を高めていくことであるし，深い学びという視点につながるのではないかと思います。

振り返りと 次時の課題設定の スパイラルを！

今井　私が授業づくりの中で初任のころから大切にしているのは，「振り返りと次の時間の課題提示をつなげ，スパイラルさせていく」ということです。これを積み重ねていくことで，単元を通したときに深い学びになっていく。そうするためには，授業は先生の一方的な課題提示ではなくて，毎時，十分に子どもたちの身体表現と言語表現の振り返りを拾って，それに先生の思いも重ねていって，次の課題をつくっていくという授業づくりが，子どもの必要感を引き出し，主体的な学びにつながっていくのだと思います。

また，子どもの深い学びにつなげるためには，教師がその運動がもつ特性や価値をどれだけ理解しているか，そして，引き出しをいくつももち，子どもたちの必要感に応じてどんどん提示してあげられるかが大切だと思います。そのための教材研究が必要だと思います。

動きを通して伝え合うのも「対話」

ゲームのとき，相手が打ってきたのが嫌な場所だったから，私もまねて打ってみよう。



練習のとき，打ちやすいところに打ってくれるようになった。ぼくもそうしたいな。



主体的・対話的・深い学びの「対話」は，何も作戦会議などの言語活動に限らないと思います。テニスのように1対1でチームがつくれないから対話が生まれていないというわけでなく，対している相手とのラリーのやり取り等を通して対話は生まれていると思います。